

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげることを目標とする。	地域密着サービスの意義をふまえた事業所理念を作っている。運営理念を常に見えるところに掲示し意識づけをしている。職員は理念を共有し、実践につなげるよう話し合い目標としている。	理念は「楽しくゆとりのあるすまい」となっている。管理者は毎日の朝礼時や、毎月の会議、業務を通じて職員へ語りかけている	4月～9月
2	20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	産まれ育った場所やこれまで生活していた地域への外出を実現する。	面会は事前予約制であり、時間制限はせず、ホームの玄関にて家族、知人問わず会うことが出来ている。また、家族の協力を得る形で、病院受診の際に、家に寄ってくる、外食してくることもあり、その他、お墓参りに行くこともある。	4月～9月
3	23	○思いや意向の把握 ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のため思いを言葉にできない利用者に対しても関わりの中で 表情や少しだけ発せられる言葉で思いを汲み取れるようにしている。またご家族に生活歴を聞き、そこからなにかご本人の希望・意向を把握できるヒントはないか、ご本人がどうゆう思いをしているかなど聞き取りを行っている。	お元気でしっかりされている利用者が多いため、自発的に思いを伝えられることがほとんどであるが、ホームの方針として「気づき」の視点を大切にしており、普段とは異なる仕草や行動を見逃さないよう配慮を行っている。外国人職員は、そうした日本人職員の様子を観察することで、気づきの視点を自発的に身に付けている。	4月～9月
4	56	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にはなじみの家具や寝具を使用することによって安らぎや安心感が得られることを十分に理解していただき、個室には自宅で使っていた家具や思い出の品、家族の写真などを置いてもらえるようにしている。	室温・湿度は、本人確認し職員の方で調節している。居室掃除は、毎日職員が行っている。居室にはエアコンとベッドが設置され、それ以外は持ち込んである。家族写真、アルバム、テレビ、タンス、ハンガーラック、衣装ケースなど持ち込んでいる。敬老の日に職員から送られるお祝いの言葉も飾っている。また、居室の出入り口には、入居者手作りの暖簾が掛かっている。そして、居室での転倒を防止するため、どの居室にするか、ベッドをどこに置かなど考慮している。必要な方には、センサーマットや人権センサーを置いている。また、居室は入居者のプライバシー空間のため、居室に入る時はノックをする、声かけするなど本人の了解を取っている。	4月～9月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。